

駒ヶ根民報

No.1390

2017.11.12

日本共産党

駒ヶ根市委員会

Tel 83-2969

共産党議員団 会派視察

定住化促進、看護大、防災士育成、公共交通対策の実践について石川県を視察しました。

かほく市に住み良さ ランキング全国4位の 定住促進の取組みを学ぶ

かほく市は人口3万5千人余、財政規模も駒ヶ根市と同程度の自治体です。県立の看護大学が両市にある縁もあり、当市とかほく市は平成25年に「災害時の相互応援に関する協定」を結んでおり以降当市とは様々な友好交流を続けています。かほく市でも金沢市と200キロ圏内に位置する地の理があるといえ自然動態や近隣市町へ人口流出による減少が課題になっており、そんな中様々な定住促進施策を打ち出しています。



マイホーム取得奨励金！ 最大200万円

人口の流出を抑制し転入の増加を図る施策として、かほく市マイホーム取得奨励金の創設を平成22年に最大100万円規模で実施しています。更に平成27年3月～①県外に3年以上居住していた方が②ウータンした時は50万円加算、③新婚さん住まい応援事業補助金を利用世帯に20万円の加算、④新たに3世代同居 近居に対する拡充として30万円が加算され、最大200万円の奨励金を交付する制度を設けています。更に中古住宅を助成対象に追加 助成額は新築の半分程度

新婚さん住まい応援事業 の拡充

成果＝平成28年度1606件
奨励金交付累計7200件
新婚世帯の経済的支援を拡充する月額1万円を最大2年間の

補助に加え、夫婦両方ないし片方の転入に際し12カ月～24ヶ月間×5千円の補助、更に制度受給中に子どもを出産した場合に補助を1年間延長します。累計定住者数751人、転入者71%

輪島市で防災組織、 防災士の育成を学ぶ

輪島市では平成19年に発生した能登半島地震 輪島市等震度6強を教訓に「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚連帯感に基づき、防災士を中心とした自主防災組織に力を入れていきます。

防災士の育成

防災士の育成は輪島市の単独事業として防災の専門知識を持つリーダーを育成し、防災水準の維持向上と防災意識の啓発に努める成果を上げています。現在防災士の資格を持っているのは591名 内女性138名。平成22年の制度強化以降平均年75名の防災士が誕生 団みに駒ヶ根市は28年度11名し、146の自主防災組織結成と防災力強化に貢献しています。

自主防災組織の助成制度

地域住民の自発的な防災活動を推進するため、輪島市は防災訓練に要した費用、防災に必要

な資機材、修繕費用、更に消火器置き場や機器の新設や修繕に事業費の4分3を補助しています。

珠洲市に公共交通対策の 実践について学ぶ

珠洲市は、能登半島の最先端に位置し高齢化が47%と深刻な中、地域交通の足をどの様に確保するのか様々な実証実験の取り組みが行われており、地域を支える新たな実践の経験に学ぶことができました。

運行実験を導入し 本格見直しを

珠洲市で取り組まれた実証実験のいくつかを紹介すると地域公共交通総合連携計画おでかけバス券導入実験 おかえりバス運行実験 市街地循環線の効率的な運行のりたく運行実験 デマンドタクシー 里山バス運行実験 スクールバスの活用 (回送時)

こつとした試行錯誤の挑戦が、住民の足を守るため現在も繰り返し経験の蓄積となっています。



第7回市民と議会による 意見交換会が盛況に開催

3日の文化の日、駒ヶ根市議会としては初の日中開催の市民と議会による意見交換会が開催されました。

全体テーマを「地域公共交通に求めること」として全大会の後、3つの分科会に分かれて熱い意見交換が交わされました。

分科会

- ① 使いやすい公共交通
- ② 駒ヶ根市の魅力を活かしたおもてなしの公共交通網のあり方
- ③ 車がなくて困る人の望む公共交通のあり方

♪参加者は議員も含め100名規模、一般市民や高校生看大生が多数参加してくれて若い感性の意見にいつになく盛り上がった意見交換会となりました。

(一)会場の意見を紹介します
広域の問題として公共交通を考えるべき。上伊那、伊南等)
中ア観光のバスを市民の足としても活用すべき。

駒ヶ根三十六景をめぐるバス、花めぐりバスなど当市の魅力を活かしたバスの運行を。
来駒者からアンケートをとり、当市の公共交通への期待や意見を今後活かしては...等...